

【教育活動の名称】 体育祭フィナーレ全校ダンス（生徒会創作）

【副題】 勝ちより価値 進化する東中

【学校名】 近江八幡市立八幡東中学校

1 本校の概要

本校は、今年度創立43年目を迎え、1年生6クラス、2、3年生5クラス、特別支援学級6クラスで、全校生徒547人の学校である。毎年、9月に開催される体育大会は、全校を縦割りで団を編成し、3年生を中心に団対抗で行ってきた。中でも見どころは各団で3年生を中心に演技構成を考え、1、2年生とともに練習に励み、作り上げた団演技である。

生徒会活動は活発で、文化祭での生徒会劇の上演や体育大会での生徒会種目としての学級対抗大縄跳びや借り物競争の運営等で活躍している。また、普段の常時活動はもとより、地域に出向いての地域清掃やイベントへの参加等、活躍の場を広げている。

2 取り組んだ内容

（1）フィナーレ全校ダンス実施のきっかけ

体育祭の内容変更にもとない、生徒会としても生徒会種目の変更を検討した。これまでは、学級対抗大縄跳びと団代表による借り物競争を実施していた。大縄跳びは学級の絆を深めるものとして実施したいという思いが強く、継続実施となった。しかし、借り物競争は参加できる生徒に限られ、多くの生徒は応援しているだけということから全校生徒が参加できるものとしたと考え、フィナーレ全校ダンスの実施が決定した。

（2）事前準備（1学期・夏季休業中）

体育祭には団演技等があるため、生徒が振り付け等を考えることは時間的にも難しい。そこで、昨年度の保健体育科で外部講師として指導をお願いしたダンススクールに、生徒会の思いをくみ取りながら振り付け、構成の考案を依頼した。1学期の放課後に生徒会と講師で選曲、振り付けを決め、まずは生徒会が全校生徒に指導できるよう振り付け等を覚えた。また、それらを YouTube に動画アップし、夏季休業中に全校生徒が閲覧し、練習できる環境を整え、給食時に生放送で全校生徒に周知した。



（3）取組の過程（2学期）

10日間の体育祭の取組期間中は、生徒会種目である大縄跳びとフィナーレ全校ダンスの練習時間として毎日6校時に生徒会の時間を設けた。生徒会が前に立ち、全校生徒の間に入り、練習を指導した。初めての取組のため計画通りに進まないことがあったが、当日の練習内容や細かな動き等を給食時に生放送で全校生徒に伝えた。また、学年ごとに練習場所を変え、少人数集団で生徒会が直接指導するなど工夫を凝らし、本番当日に向けて練習を重ねた。



（4）本番当日の様子

体育祭のフィナーレを飾る最後の種目として実施した。それまでは団対抗として競い合ってきたが、最後はそれぞれのがんばりを称え、全校生徒が一体となり演技ができた。また、グラウンド中に曲を響かせ、場を盛り上げる音響設備、演出環境を整えた。ダンスの構成には、各団の団演技のメインとなる振り付けが入っており、お互いのがんばり、良さを確かめ合い、感動的なフィナーレとなった。



3 活動の成果

体育祭を終えたあと、生徒の表情にはやりきったという思いが溢れていた。全校生徒で取り組んだという一体感を感じ、自己肯定感を高まりが感じられた。特に、生徒会は自分たちで0から創りあげたものとして達成感を感じていた。そんな生徒会をみて他の生徒もあこがれを抱くとともに、来年度以降自分たちもあのようになりたいと思う生徒が増えた。また、体育祭実施後の全校集会やビブリオバトル等でも活発に意見交流等ができるようになり、学校全体として集団の高まりを感じた。